

令和4年産 果樹情報（第4号）

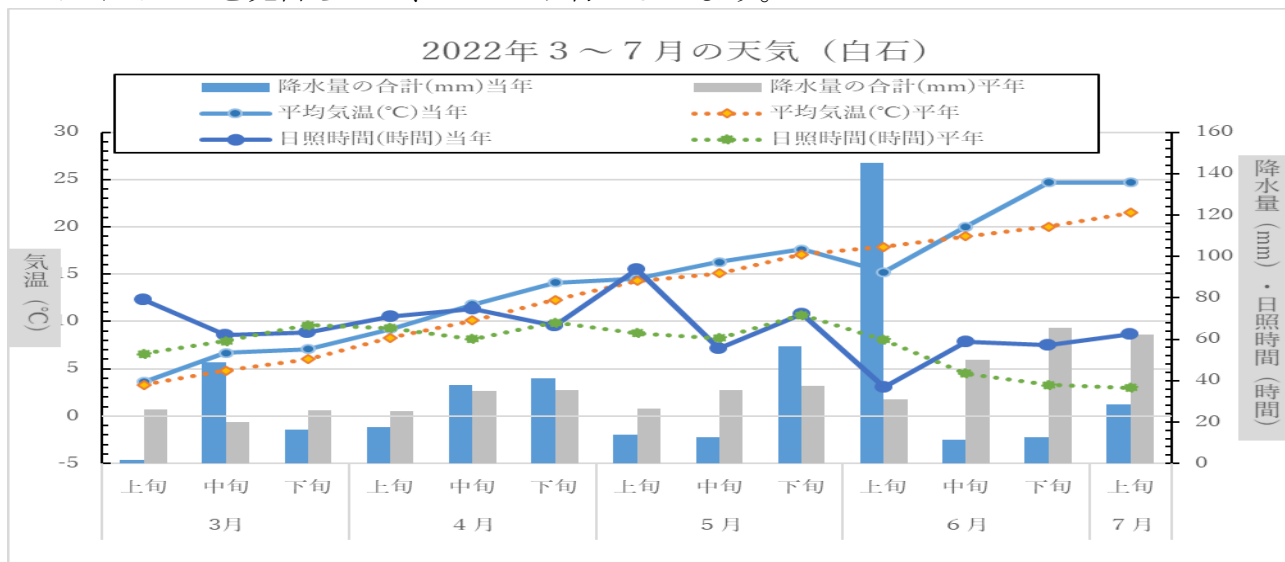
令和4年7月21日
宮城県大河原農業改良普及センター

降雨が続くと、各種病害の感染危険度が高まります。
十分な散布量を確保し、防除効果を高めましょう。

- ・ 日本なしの黒星病の発生が多いので注意が必要です。

1 気象経過

- 6月のアメダス白石地点における平均気温は19.9℃で平年より1℃高く、降水量は169mmで平年比116%でした。
- 今年の梅雨入りは6月14日頃で、平年より3日程度早く、梅雨明けは6月29日（平年は7月24日）と過去最短期間となりました。
- 7月11日の週から梅雨に戻って、毎日曇天・降雨の天候が続いています。農薬散布はタイミングを見計らって、しっかり行いましょう。



2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

大河原管内の果樹作況調査ほにおける果実肥大は、りんごでは平年よりやや小さく、なしでは平年並から平年より大きい状況です。ももは平年並みです。

表1 7月4日（もも）及び11日（りんご・なし）の果実肥大状況（単位：mm）

樹種	品種	地点	本年		令和3年		平年値		平年比(%)	
			縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
りんご	ふじ	白石・郡山	45.6	48.0	48.3	51.5	47.9	50.8	95	95
		角田・豊室	42.2	48.9	46.7	55.0	37.0	43.4	114	113
	蔵王・高木	36.1	39.8	36.4	40.9	35.1	40.5	103	98	
なし	豊水	角田・豊室	40.3	43.5	43.8	49.0	37.3	41.0	108	106
		蔵王・高木	36.4	39.4	34.6	38.0	34.5	37.2	106	106
もも	あかつき	丸森・舘矢間	55.1	52.9	-	-	52.0	53.3	106	99

* R3年度ももは凍霜害により測定不能

3 樹種ごとの管理

(1) りんご

イ 修正摘果

- ・果実肥大や果形の差、障害果などが区別できる時期なので、小玉果、変形果、病害虫被害果、さび果は取り除きます。
- ・果そう葉が少ないと小玉果になりやすく、また、長果枝先端の果実は青実果になりやすいので、着果量が多い場合は優先的に摘果します。

ロ 病虫害防除

- ・斑点落葉病、輪紋病、褐斑病
斑点落葉病は最低気温が20℃以上で3日以上降雨が続くと急増する傾向があります。発病した徒長枝は取り除き、園外で処分します。
輪紋病の果実への感染は6月中旬から8月上旬の降雨の多い時に起こるため、いぼ皮病斑の多い園地では、枝幹部にも十分薬液がかかるよう予防防除を実施します。
降雨日が多くなると褐斑病の発生にも注意が必要です。
薬剤防除は、降雨に注意し、十分な散布量を確保し、ムラのないように散布します。
- ・ハダニ類
梅雨明け以降に高温が続くと発生量が急増するので、1葉あたり3頭確認されたら殺ダニ剤を散布します。除草作業と殺ダニ剤の散布日が近接する場合は、除草作業の数日後に殺ダニ剤を散布します。また、ナミハダニは雑草から移動し加害することがあるので、隣接地の発生状況にも注意します。
- ・モモシンクイガ
管内では7月～9月まで発生が続くので、定期的に防除します。
産卵場所となりやすい「がくあ部（果頂部）」を観察して産卵期を見極め、適期（産卵盛期）に防除してください。多発ほ場では、殺虫剤散布の補助手段として交信攪乱剤の使用も効果的です。

(2) 日本なし

イ 新梢誘引

不定芽新梢を含めた新梢誘引は、受光条件の改善や防除効果の向上、冬期せん定後の結果枝棚付けの労力軽減、省力化などの効果が期待できるので、「幸水」以外の品種でも積極的に実施します。

ロ 修正摘果

「幸水」では7月中旬が裂果発生時期となるので摘果は一時控えます。裂果が収束したところで、小玉果、変形果、障害果等を取り除きます。「豊水」ではスジ果や小玉果を中心に着果量の見直しを行い、軸折れ果を確認しながら見直し摘果を実施します。

ハ 病虫害防除

- ・黒星病
黒星病の発生は例年より少ないですが、油断せず定期防除を行ってください。病斑のある葉や果実は見つけ次第取り除き、ほ場に放置せず地中に埋めるなど適切に処分します。黒星病は雨滴で感染し、潜伏期間14～30日程度で発病します。対策は降雨前の予防防除が重要です。特に保護殺菌剤は降雨前に防除しないと十分な効果がありません（降雨前＝薬液が十分乾く程度の時間は必要）。また、十分な散布量

を確保し、スピードスプレーヤの走行経路や散布圧力等を確認し、ムラのないよう散布します。

本県では現在まで DMI 剤 (FRAC コード: 3), QoI 剤 (FRAC コード: 11), SDHI 剤 (FRAC コード: 7) の耐性菌は確認されていませんが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とし、FRAC コードが同じ薬剤の連用を避けましょう。

- ・ シンクイムシ類, ハダニ類

これから夏期にかけて発生が多くなるので、ほ場内を見回り、発生初期に防除を実施します。一部殺ダニ剤で効果が低下している事例があるので、寄生種をよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察してください。

(3) もも

イ 修正摘果

「あかつき」で核障害の発生が多い場合は、修正摘果は2~3回に分け、次の果実に注意します。

[果頂部の変形、縫合線が深い、果面からヤニが発生、果皮が変色、極端な肥大]

ロ 中生品種の収穫前管理

「あかつき」等は7月中旬頃から着色期に入るので、支柱立て、枝つり、葉摘み、反射シートの設置は遅れないように実施します。

ハ 病害防除

- ・ せん孔細菌病

り病部は二次伝染源となるので、見つけ次第せん除し、園外に処分します。

収穫後の9月上旬頃から2週間間隔で2回、発生が多い場合は3回防除を実施します。

- ・ 灰星病

収穫前20日頃から急激に発生しやすくなるので薬剤防除を徹底します。

- ・ ホモプシス腐敗病

中・晩生品種の重点防除時期になります。薬剤散布は早生種の収穫時期に注意し、使用時期(収穫前日数)を遵守します。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ・ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう。
- ・ 農薬容器のラベルをよく読みましょう。
- ・ 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう。
- ・ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう。
- ・ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう。
- ・ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう。

暑い時期の作業となりますので、熱中症にならないよう、こまめに水分補給と休憩をとりましょう。

